

「緊急時・異変時対応訓練の実践とマニュアルについて」

厚木精華園 健康委員会
鍋倉 匡彰 富田 真知子 吉澤 仁宏
押田 真由子 福岡 君代

1.はじめに

厚木精華園は中高齢者を対象としている為、救急車要請だけでなく急変リスクが高い状況がある。その中で、日々の健康管理や医療との連携だけでなく、緊急時・異変時に備え、各課にて毎月のグループ会議での訓練や全園で年2回の訓練を実施している。今後、更に実態にあった訓練の実施や法人内他園での活用等の為、今までの実績をまとめ課題の抽出及び情報を発信する。

2.厚木精華園の現状

利用者の平均年齢は67.8歳で、そのほとんどの利用者が何らかの持病を抱えている。平成29年から令和3年度まで過去5年間で56件救急要請を行っている。

内訳別表

平成29年度	5件
平成30年度	13件
令和1年度	16件
令和2年度	8件
令和3年度	14件

今年度(令和4年度)は10月現在12件。

3.訓練の目的

当園では、いつどこで利用者が急変するかわからない為、様々な場面での心肺停止を想定し、各課にてグループ会議や課会議の際に心肺蘇生とAEDを使用した救命処置等の異変時対応訓練、季節によってはノロウイルスなど感染症対応訓練を実施している。

また、年2回園全体を対象とした全課異変時訓練も実施しており、「全職員が連携して異変時の対応ができる」ことを目指して訓練を行っている。

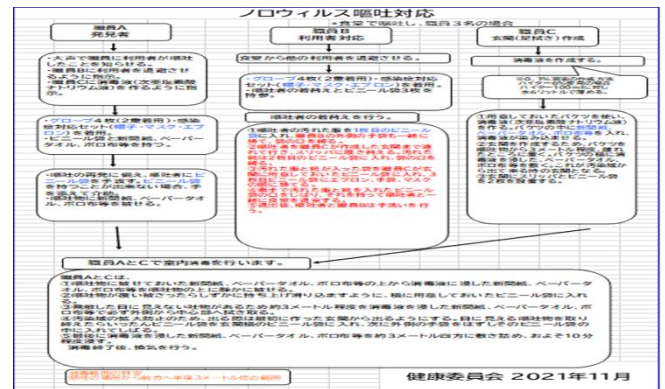
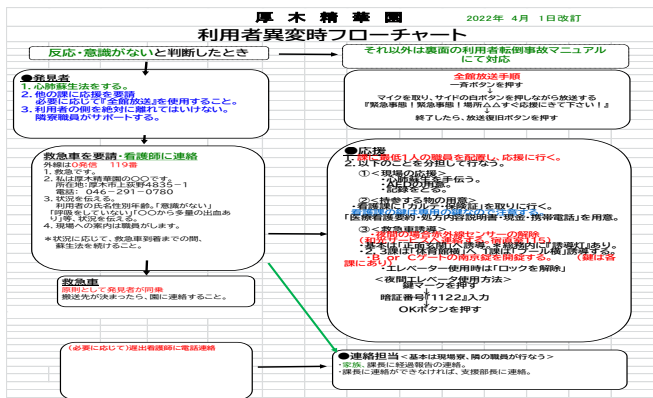
4.訓練年間スケジュール

訓練の内容は健康委員会が内容を設定・周知し、各課で実施している。

まずは「AED使用方法・心肺蘇生の実技訓練・外傷による出血などの対応方法」の基本的な実技の確認を確実にを行い、以下の表を基にシナリオを用いて実際の利用者の急変を想定した実践的な訓練である利用者異変時対応訓練を実施している。

4月	AED使用方法・心肺蘇生法の実技訓練・ 外傷による出血などの対応方法	7月	利用者異変時対応訓練(全体訓練)
5月	利用者異変時対応訓練(夜間想定 看 護課内保険証保管場所確認等)	8月	AED使用方法・心肺蘇生法の実技訓練・ 外傷による出血などの対応方法
6月	AED使用方法・心肺蘇生法の実技訓練・ 外傷による出血などの対応方法	9月	利用者異変時対応訓練
10月	感染症(ノロウイルス・インフルエンザ等) 発症時の対応訓練	1月	AED使用方法・心肺蘇生法の実技訓練・ 外傷による出血などの対応方法
11月	感染症(ノロウイルス・インフルエンザ等) 発症時の対応訓練	2月	利用者異変時対応訓練(全体訓練)
12月	感染症(ノロウイルス・インフルエンザ等) 発症時の対応訓練	3月	AED使用方法・心肺蘇生法の実技訓練・ 外傷による出血などの対応方法

4.フローチャートについて



別表1、2参照

フローチャートは、急変している利用者を発見してからの対処方法、各セクションへ応援依頼、救急要請を行う手順が記されているものと、感染症対応時の対処方法が記されたものがあり、各課にてこのフローチャートを使用し、実際に起こった時に落ち着いて行動できるように備えている。

5.救急医療カートについて

フローチャート以外にも、緊急時に迅速に対応できるよう様々な備えを行っている。画像1は「救急医療カート」で、上段下段にわかれており上段に、AEDや吸引器・アンビューバック・救急箱・マスク・吸引カテーテル等を設置している。画像②はカートの下段で、感染症対策グッズで、ガウン・ふきん・サンダル・ゴミ袋・新聞紙・ノロウイルス対応フローチャート・へら等、ノロウイルスを想定したものを設置している。

緊急時に、必要な道具を一カ所にまとめ、いつでも対応できるよう、支援員室や寮内の持ち出しやすい場所に設置している。また、訓練でも救急医療カートを模擬的に使用し、より実践に近い形で訓練を実施している。



【画像①】



【画像②】

6.訓練について

訓練は、各課にて主に会議の際に課内で想定出来るシナリオを基に訓練を実施している。季節によってはノロウイルスを想定した感染症対応訓練も実施している。

訓練後に挙げた感想や反省は以下の通りであった。

(1) 異変時対応訓練の感想

- ①AEDを使ったことがなく、どの様に動いて良いか分からなかったが、毎月行うことで体得することができた。
- ②シナリオに沿って訓練を行うことで、基本的な救命処置の流れや技術、職員間の連携について確認することができた。
- ③救急車要請時の救急隊とのやりとりのシミュレーションをしたことが、実際に救急車を要請した時落ち着いて対応できた。
- ④訓練時に看護師や応急手当普及員から心肺蘇生時の胸骨圧迫やAEDの取り扱い等を助言・指導があり、再確認することが出来た。

(2) 感染症対応訓練の感想

- ①嘔吐した利用者の対応は、焦ってしまうことが多く、早くしなければとの頭があっただが、この訓練を通して、手順の重要性と、確実にこなさなければ更に被害が拡大する事を認識できた。
 - ②1人で対応することはほぼ不可能、手順もそうだが、チームワークがとても重要だと思った。
 - ③ノロウイルスは冬季に流行することが多く、訓練に関しては、どうしても冬場に実施する事が多く、久しぶりに訓練を行う際、忘れていた事が多く、定期的の実施して行く事が望ましいと思った。
- このように、訓練を通して動きを再確認することの重要性や新たな気づきがあった。また、感想や提案を毎月の健康委員会にて集約し、各課へフィードバックし、課題を整理した。

7.事例

訓練の成果が実り、利用者の異変を発見してから搬送までの手順が訓練通りスムーズに対応する事ができ、職員の自信にもつながる結果となった事例を紹介する。

(1)プロフィール Bさん 男性 75歳 車椅子

(2)既往 糖尿病、高血圧、陳旧性心筋梗塞

(3)事案 Bさんは、昼食を終え、食堂から居室に向かい、車椅子を自走し移動していた。

食堂の入り口付近で止まっているBさんに職員が気づき、声を掛けても反応がなく、口元に手を当てると、呼吸が確認できないため、すぐに胸骨圧迫を開始。

令和4年度 体験交流セミナー①

看護課、他課への応援要請および救急要請を行ない、その間、AED の使用や看護師による酸素吸入が行なわれた。

2 回目の電気ショックで、微弱ながら呼吸と脈が確認され、救急隊が到着した時には自発呼吸を確認。

意識消失を確認して、呼吸が確認できるまでの 8 分の間、職員が連携し迅速に対応した結果、B さんは一命を取りとめた。

8.まとめ

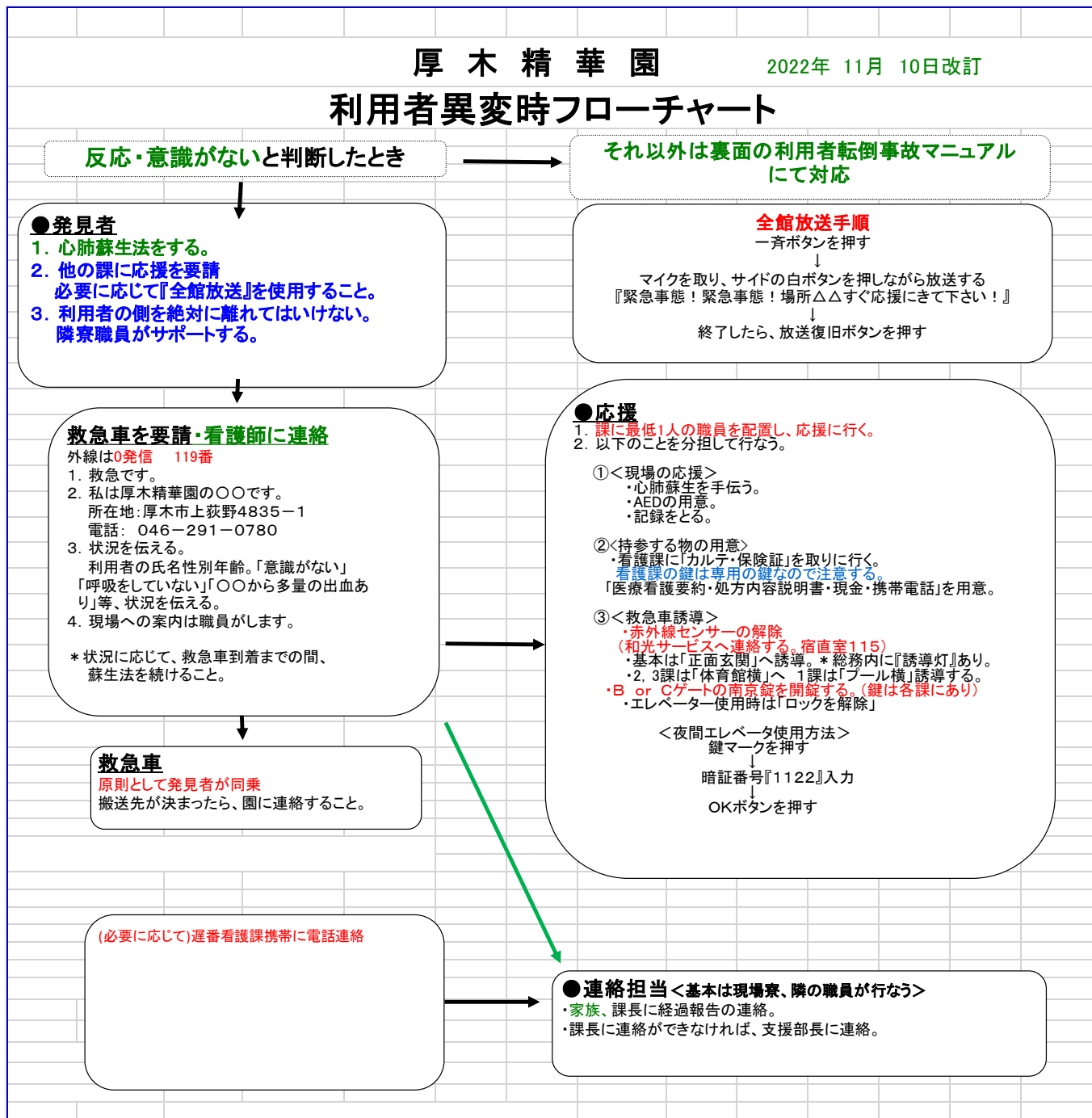
高齢で様々な持病を抱えている利用者の命を守るために、応急手当や心肺蘇生、AED の使用、感染症対策は不可欠であると考えます。

定期的に訓練を重ねることは、いつ起こるか分からない利用者の急変に備えて職員の意識や技術を向上させ、実際に起こった時に訓練での経験や反省を生かし行動できるようになるために重要である。

さらに各課に応急手当普及員が在籍していることは、職員にとって疑問や不安に感じたことについて確認でき、学べる環境があり、このことも救命処置を行うことへの自信に繋がっている。

継続的に正しい知識や技術を発信できる人材の確保や育成が課題であり、職員の入れ替わりはあるが、いつ起こるか分からない利用者の急変に備えて、今後も継続的に訓練の実施やマニュアルの見直し等を実施していく。

別表1



別表2

